

研究代表者 所属・職：教育・心理学部 准教授

氏 名：松山 有美

研究課題名：米国における保育の多様化と保育者の専門性・養成教育に関する実証研究

### 取り組み状況

本研究プロジェクトでは、保育ニーズが多様化する社会において求められる保育者の専門性とは何かを検討することを目的とした。目的を達成するために、米国にて保育者を対象にアンケートおよびインタビュー調査を実施した。調査の概要は次の通り。

#### 【調査概要】

調査期間：2019年8月17日から8月25日の

10日間

調査地：米国・メリーランド州

調査対象：保育所（4ヶ所）に勤務する保育者  
（70名）

調査方法：アンケート調査およびインタビュー  
調査

なお、調査に際して、各園の施設長および保育者に調査の目的を説明し、許可を得た上でインタビュー、アンケートおよび保育観察を行った。また、観察時には映像及び写真を撮影したが、子どもたちの特定につながる撮影行為は禁止とした。合わせて、調査期間において各自治体における保育政策等に関する資料の収集も実施した。

### 研究成果の内容

#### 【研究成果】

前述のとおり、米国にて調査を実施した。保育者70名に配布し、36名からの回答を得た（回収率51.4%）

調査を通して、保育の多様化をめぐる現状と課題が浮き彫りとなった。歴史的に多文化共生社会を形成する米国であるからこそその課題も散見されたが、今まさに保育の多様化をめぐる課題に直面している日本との共通点も明らかになった。また、

保育が多様化していることで、保育者に求められる専門性が変容し、そのために養成段階での学びや就職後の研修などに関する要望が変化していることが明らかとなった。本研究を通して、保育の多様化に柔軟に対応しつつも、子どもの発達を保障し、子どもの権利を守る保育の構えを失わない保育者の姿が明らかとなった。なお、本プロジェクトから得たデータの一部は、研究成果として論文（2本）と学会発表（1本）を通して発表した。今後は、本プロジェクトから得たデータをより詳細に整理・分析し、社会に発信して行くとともに、得られた知見を次の研究（科学研究課題）へと援用していきたい。

#### 【論文】

- ① 松山有美, Morrone, H. Michelle., (2020), 「米国における保育の多様化に関する現状と課題(2)ーメリーランド州の多文化保育と「言葉」に関する保育指導方法ー」(共著)『子ども学論集』
- ② 松山有美, (2020), 「保育における多様性に関する一考察ー保育内容「言葉」と発達に注目してー」(単著)『日本福祉大学子ども発達学論集』

#### 【学会発表】

- ③ 松山有美「米国における多文化保育とその研修に関する課題」(単著・口頭発表), 2020年, 第73回日本保育学会, 奈良教育大学(大会運営よりコロナウィルスの影響により大会は中止とするが、研究発表受理者は報告したとみなす)